

小竹だより

練馬区立小竹小学校 校長 瀧嶋 克己



平成27年 1月号

No. 477

一人一人を大切に

校長 瀧嶋 克己

新年あけましておめでとうございます。年末年始と天候に恵まれ、ご家族そろってよい年の初めをお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は本校の教育活動にご理解ご支援をいただき、ありがとうございました。本年もどうぞよろしく願いいたします。

さて、本校の教育目標「かしこく」「やさしく」「たくましく」の上に「共に生きる子供」が置かれています。今回は特別支援教育についてお知らせします。

特別支援教育は、障害のあるすべての幼児・児童・生徒の教育の一層の充実を図るため、従来の特殊教育の対象の児童だけでなく、知的な遅れのない発達障害も含めて特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒が在籍するすべての学校において行うものです。

平成14年に文部科学省が実施した調査では、小・中学校の通常の学級には、「落ち着きがない」「こだわりが強い」「コミュニケーションがうまくとれない」などの理由により、特別な支援を必要とする児童・生徒が約6%の割合で在籍している可能性があるとの結果を得ました。40人学級であれば2～3名の割合で在籍していることになります。

東京都では、平成16年度から東京都特別支援教育推進計画を策定し、現在は平成23年度～平成28年度までの第三次実施計画を示しそ

の充実を図っているところです。

発達障害の児童・生徒の場合、集団生活や対人関係において生じる様々な困難が、本人の自尊感情の低下を招き、学校生活不適応などの深刻な二次障害を引き起こすことがあります。

本校では、特別支援教育コーディネーター（門園主幹養護教諭）を中心に校内委員会を設置し、スクールカウンセラーや心のふれあい相談員等も交え支援方法を協議し、支援を行っています。同時に学校と対象児童の保護者が支援方法を協議する場を設け児童のニーズに合わせた支援を探っています。

発達障害の児童・生徒に対する指導方法や教室環境の工夫は、障害のない児童・生徒にとっても分かりやすく効果的であるといった研究成果も出ています。障害のあるなしに関わらず自立をめざし、共生社会の一員となる目標は同じです。今後も、児童一人一人が生き生きと学習や生活に取り組めるよう支援を行ってまいります。ご協力をお願いします。